

## 2 未指定・未登録文化財

平成 20 年度から 22 年度に実施した文化財総合的把握モデル事業では、文化財類型に基づき、未指定・未登録の文化財の調査も実施し、地元調査員による調査カードの作成、公民館でのワークショップやヒアリングなどを通じて、下表のように約 1,200 件の文化財の調査を行った。その成果については、「文化財総合的把握モデル事業 津和野町文化財所在地一覧」にまとめている。

表 1-4 文化財総合的把握調査集計

地 区	調査リスト件数 (A)	調査済 (B)	把握率 (B/A)
橋 北	276	208	76%
橋 南	192	187	97%
木 部	233	254	109%
畑 迫	82	89	108%
小 川	130	123	95%
日 原	151	136	90%
青 原	79	73	92%
左 鐙	75	77	103%
須 川	48	45	94%
合 計	1,266	1,192	94%

※1：重複分は、1 件としてまとめている。

※2：調査リスト…町史等を参考に津和野町にある文化財をリストアップしたもの、及び調査員から寄せられた調査会カードを追加（重複分は除く：町史等からリストアップしたもの以外）。

※3：調査済は調査リスト以外の文化財を調査したことがある。したがって把握率が 100%を超える場合がある。

こうした未指定文化財等の悉皆調査は、文化財総合的把握モデル事業において初めて行ったものであり、今後とも、住民等の協力を得ながら、持続的に文化財の把握等に取り組むとともに、未指定文化財等を含めた文化財やその保護に関する住民等への情報提供や啓発に努める。また、未指定文化財の中から指定文化財候補を選定し、今後専門的な調査を実施する計画である。以下、その中の幾つかを紹介する。

建造物の候補としては、鷲舞神事を行っている弥栄神社の本殿、城下町内にある剣玉神社本殿、日原幕領内にある春日大社本殿、旧宿場町にある青原八幡宮本殿、木部地区にある千原山八幡宮本殿、名賀地区にある愛宕神社本殿などの神社が挙げられる。



弥栄神社本殿



愛宕神社本殿

また、部栄地区にある西光寺、日原幕領内にある丸立寺、横道地区にある鎮蔵寺などの寺院。さらに商家やその蔵、JR山口線のSL転車場・鉄橋・トンネルなどの鉄道遺産などが挙げられる。



鎮蔵寺



JR山口線

史跡の候補は、津和野藩主である亀井家墓所、亀井家の分家であった高崎亀井家の屋敷跡、木部地区にある津和野城の重要な支城の一つである御嶽城、江戸時代幕領として管理されていた笹ヶ谷鉦山跡、キリスト教施設である乙女峠のマリア聖堂などが挙げられる。



亀井家墓所（南側）



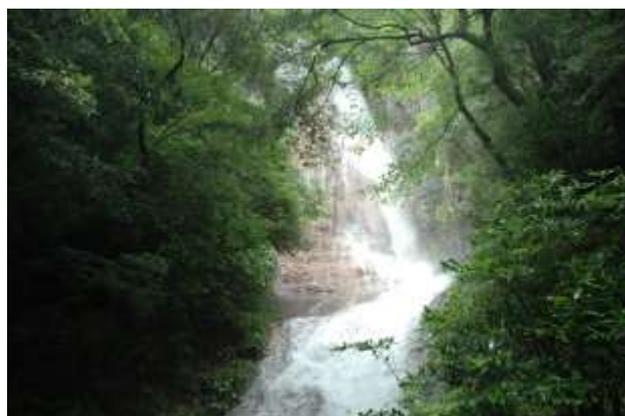
高崎亀井家の石垣

美術工芸品の候補としては、栗本格齋が書いた『津和野城下町絵図』や『津和野百景図』等、津和野藩邸で使用されていた板絵、藩校養老館の教科書類一式、仏像類、鉦山師であった旧堀家文書などが挙げられる。

天然記念物の候補としては、津和野町野のシンボリック的存在である青野山、『津和野百景図』にも選ばれている滝元地区にある雄滝と雌滝、高田地区にある白糸の滝などが挙げられる。



津和野百景図（青野）

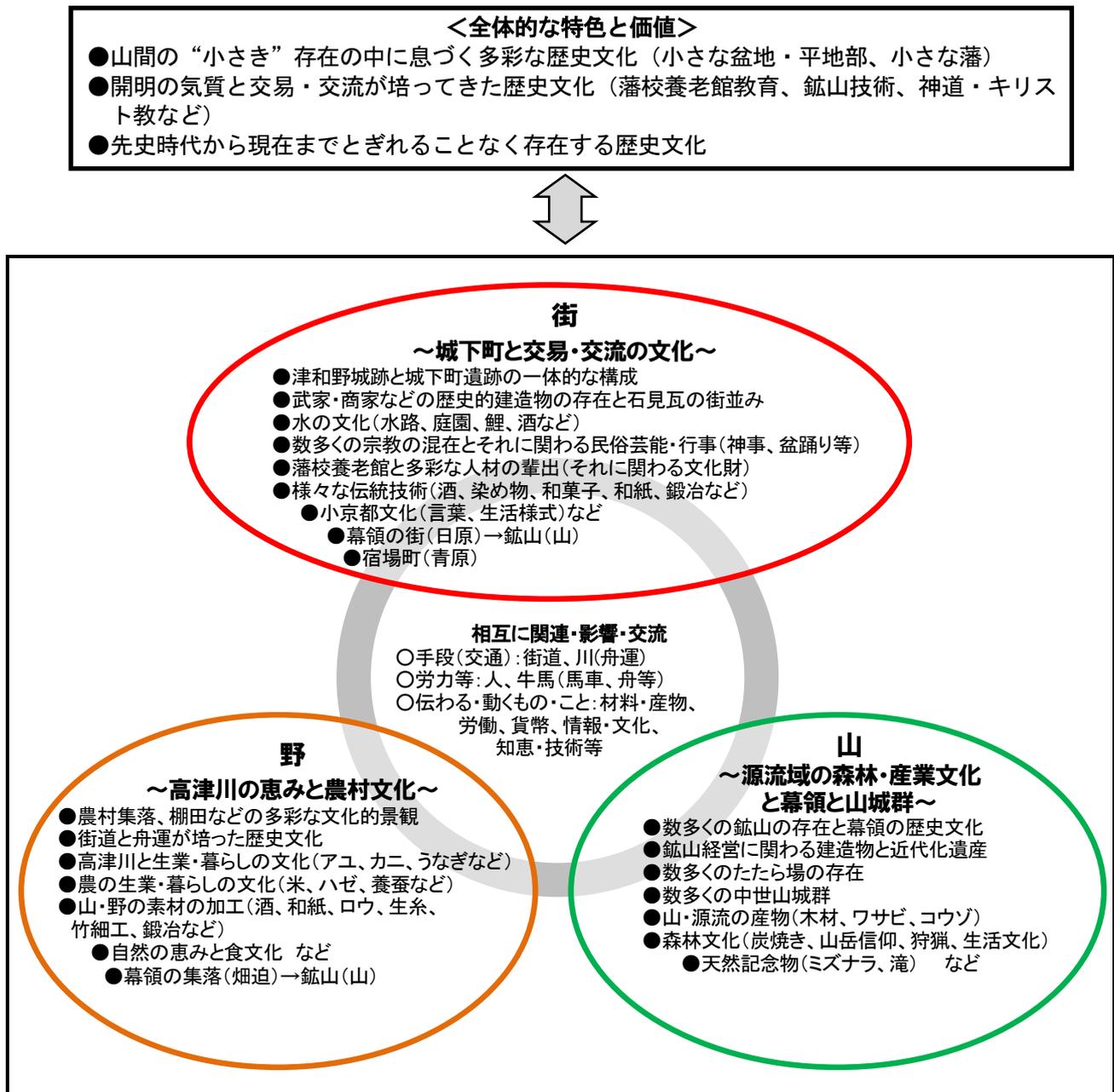


雌滝

### 3 津和野町の文化財の特色と価値

津和野町の歴史文化の特色と価値を個別的に取り上げ、さらに共通する視点（切り口）で大きく区分すると、以下のように全体的な特色と価値とともに、“野”、“山”、“街”といったキーワードで区別することができる。

また、それぞれの区分は相互に関連・影響し合っていることになる。



※津和野町歴史文化基本構想・保存活用計画では幕府の直轄領を「天領」としていたが、本計画では「幕領」に統一する。

図 1-10 津和野の歴史文化の特色と価値に関わる主な内容（要点）と構成

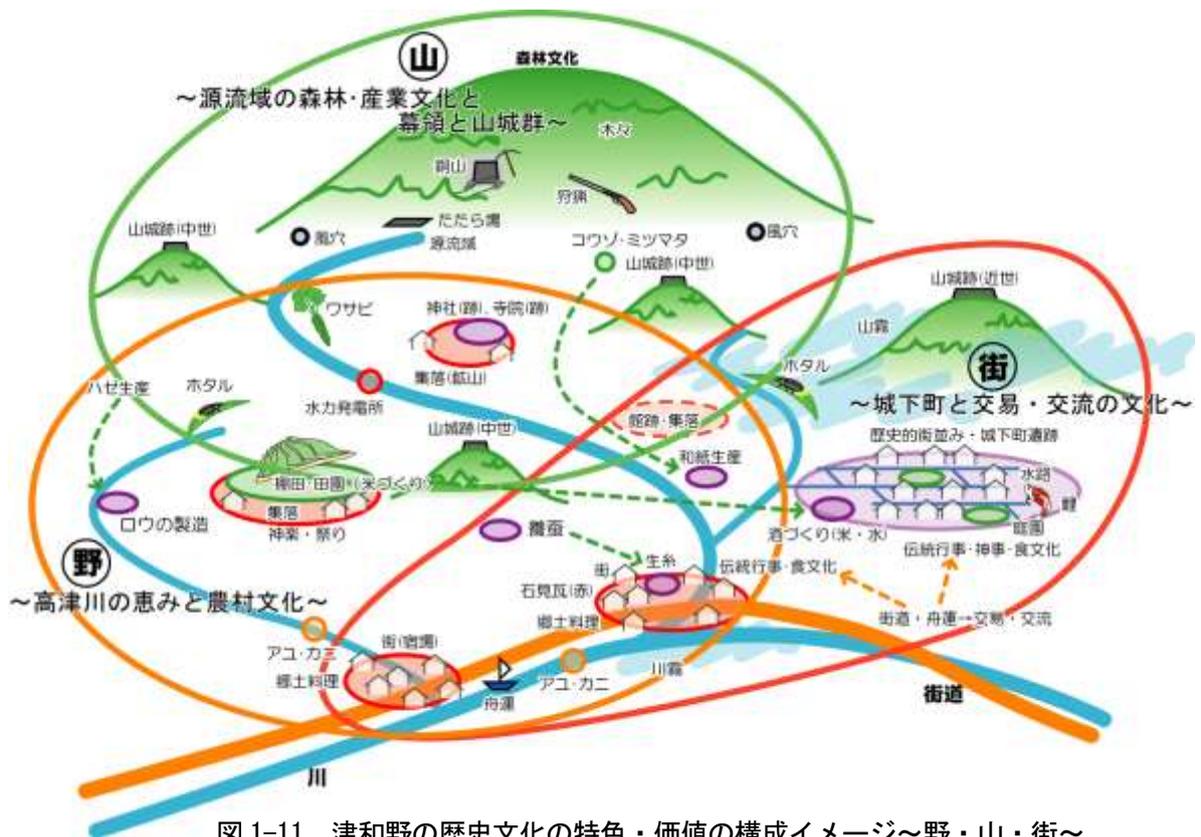


図 1-11 津和野の歴史文化の特色・価値の構成イメージ～野・山・街～

## (1) 全体的な特色と価値

### ●山間の“小さき”存在から生まれた多彩な歴史文化（小さな盆地・平地、小さな藩）

津和野町は、山間の盆地や平地、斜面地に街や集落を築いてきた地域であり、いずれも小規模な空間で、それらが地域の中に点在し、地形的には川がつなぐような構造となっている。

また、近世においては、津和野藩が置かれた地域であるが、4万3千石の小藩であった。

このように地形的にも、藩の規模の面でも“小さき”存在であったものの、幕末の激動期における教育改革によって、多分野において数多くの人材を輩出し、とりわけ幕末から明治においては歴史的な使命を担い、その歴史と文化が息づく地域である。

### ●開明の気質と交易・交流が培ってきた歴史文化

津和野町は、決して恵まれているとはいえない環境にありながらも、そこに生きる人々は川や森、自然の恵みを利用し、生かしながら、暮らしや地域を築いてきた。

また、山間の厳しい条件を克服するように、街道や舟運を通じて、活発な交易・交流を行い、各地の情報や技術を吸収してきた。こうしたことは、世の中の状況や時代の流れに対する鋭敏さにつながり、教育や個の充実の重要性を認識し、藩校養老館に代表される先駆的な人材育成に取り組み、その風土を引き継いできた。その結果、数々の人材を輩出し、それぞれの時代と次代を築いてきた。

いうならば津和野町は、風土を生かし、克服しながら、開明の気質を持って営んできた歴史と文化が息づく地域である。

### ●先史時代から現在までとぎれることなく存在する文化財

津和野町には、縄文・弥生から古代、中世、近世、そして近代・現在に至るまで、各時代の文化財が、数多く存在する。また、歴史的に培われた農業や林業、伝統産業といった生業、そして食文化や習俗、民俗芸能なども息づいている。

まさに、先史時代から現在まで、文化財がとぎれることなく存在し、現在においても、生活の中に様々な時代の歴史文化が息づいている地域である。

## (2)「街」に関わる特色と価値～城下町と交易・交流の文化～

### ●津和野城跡と城下町遺跡の一体的な構成

津和野城跡は、全国的にも希有な近世の山城跡であり、山城の居館を構成していた櫓が残っているのは津和野城跡だけである。

また、城下町を構成していた建造物が数多く残り、城跡と旧城下町が一体的に残っている。

### ●武家・商家などの歴史的建造物の存在と石見瓦の街並み

旧城下町には、その時代の武家・商家などの建物が残り、また、明治以降の歴史的な建物も多数残っている。

また、建物の大半が石見瓦（赤瓦）を使用しており、街並みの景観を特徴づけている。

### ●水の文化

藩校養老館前などには往時の水路が今も残り、鯉が泳ぎ、観光資源にもなっている。その他、現在は、水路の蓋掛けなどで見ることは少なくなっているが、地下には水路網の遺構が残っている。

また、旧城下町の民家（商家など）では、京都の文化を取り入れた庭園が、煎茶文化などとともに暮らしを彩り、水を生かした酒づくりなどの生業も今に引き継がれている。

### ●数多くの宗教の混在とそれに関わる民俗芸能・行事

津和野地区は、小規模な地域であるものの、神道、仏教、キリスト教が根づき、それに関わる神事や盆踊り、乙女峠まつりなど数多くの民俗芸能や行事が行われている。

### ●藩校養老館と多彩な人材の輩出（それに関わる文化財）

近世においては、津和野藩に養老館が設置され、そこにおける教育により、多くの人材を輩出した歴史がある。

現在も藩校養老館の建物等（県の史跡）や森鷗外旧宅、西周旧居、関係する文書・資料などが残っている。

### ●様々な伝統産業

津和野地区には、自然の恵みを生かした酒や和紙づくり、染め物、農耕を支えてきた鍛冶、京都の文化の影響を受けた和菓子づくりなどが継承されてきている。

### ●小京都文化（言葉、生活様式）

津和野地区は、歴史的に京都の文化を取り入れた地域であり、言葉や生活様式にその影響がみられる。

生活様式に関しては、前述の庭園や和菓子に加え、煎茶の文化が今も暮らしに息づいている。

### ●幕領の街（日原）

日原地区は、銅山があることから、江戸幕府の直轄領（幕領）となり、また、高津川の舟運や奥筋往還といった交通基盤、養蚕・製糸や精蠶などの産業もあり、発展した歴史を持つ。

現在では、近世の建物はなくなったが、街は引き継がれ、石見瓦の家並みと高津川、そして周囲の緑が景観を特徴づけている。

### ●宿場（青原）

青原地区は、山陰道と高津川の舟運の結節点にできた宿場であり、代官所もあった。また、交易・交流の要衝であったことから、現在では、水害による再整備が行われたことや人口減少もあり、宿場の街並みとしては残っていないが、往時と同じ場所に建っている家や青原八幡宮、石造物、そして民俗芸能などを通じて、かつての賑わいや暮らしを知ることができる。

### (3)「野」に関わる特色と価値～高津川の恵みと農村文化～

#### ●農村集落、棚田などの多彩な文化的景観

津和野地区には、山間の小規模な平地や斜面地を生かした農村集落や棚田が、散在する形で数多く存在する。

これらは、農地や川、周辺の山、森と相まって、それぞれに固有の文化的景観を形づくっている。

#### ●街道と舟運が培った歴史文化

津和野町には、史跡に指定された山陰道（徳城峠越・野坂峠越）があり、さらに、津和野・廿日市街道、奥筋往還などの歴史的な道を確認することができる。また、清流高津川は、支流を含め舟運によって人・物などが行き交い、地域を支え・発展させた歴史を持つ。

このように津和野町は、街道と舟運による交易・交流によって、歴史文化が培われてきた地域である。

#### ●清流高津川と生業・暮らしの文化

清流高津川は、アユ、カニ、ウナギなどの豊かな川の恵みをもたらしてきた川であり、漁労や食文化などはぐくんできた。

現在でも伝統的な漁やその道具などが残り、アユ釣りは風物詩になっている。

#### ●農の生業・暮らしの文化

決して恵まれているとはいえない地形条件の中で、自然を生かし培われながら、米づくりが行われ、ハゼ、養蚕などの生業が営まれてきた。

#### ●山・野の素材の加工

津和野町には、米、木材・竹、ハゼ、まゆ、鉄など、山と野の生産物（素材）を生かした酒、和紙、竹細工、ロウ、生糸、鍛冶、炭焼き（木炭）などの生業が生まれてきた。

#### ●自然の恵みと食文化

津和野町は、川や農、山の恵みが地域で生み出され、交易・交流によって海産物や京都の食文化ももたらされた地域である。

また、豊かな森を背景に、鳥獣の肉食文化もはぐくまれてきた。

#### ●幕領の集落

畑迫地区は、山間の山村または農村集落といえるが、近くに笹ヶ谷銅山があったことから江戸幕府の直轄領（幕領）となり、発展した歴史を持つ。

鉾山師（経営者）であった堀氏は、鉾山だけではなく、畑迫の生活の場の整備も進めた。

#### (4)「山」に関わる特色と価値～源流域の森林・産業文化と幕領と山城群～

##### ●数多くの鉱山の存在と幕領の歴史文化

津和野町には、笹ヶ谷銅山や日原銅山など、数多くの鉱山があり、地域の歴史文化を培ってきた。

笹ヶ谷銅山については、中世・近世・近代と操業を続け、鉱山師（経営者）であった堀氏の庭園などは名勝に指定されている

日原銅山については、江戸時代は幕領（幕府の直轄領）であり、周囲が津和野藩の中にあつて、独自の生活と文化が培われていた。

##### ●鉱山経営に関わる建造物と近代化遺産

笹ヶ谷銅山は、長い間操業を続けた鉱山であり、多くの人々が働き、地域での暮らしが営まれてきた。鉱山師（経営者）であった堀氏は、鉱山だけではなく、生活の場の整備も進め、庭園や関係する建造物、畑迫病院は名勝に指定されている。

また、水力発電所の建設も行い、前記の病院とともに近代化遺産と位置づけられる。

##### ●数多くのたたら場の存在

津和野町の豊かな森林（特に左鐙地区）は、たたら製鉄の基盤であり、近代製鉄が導入されるまでは、盛んに行われていた。

現在、たたら場跡は、樹木に覆われた状態ではあるが、左鐙地区を中心に数多く存在する。

##### ●数多くの中世山城群

津和野町においては、弘安5年(1282)の吉見氏の入部以降、蒙古の再襲来に備え、築城が始まり、戦国期を含め、多数の山城が築かれた。

なお、津和野城は、吉見氏が築城を始め、その後、近世に入り坂崎氏、亀井氏に引き継がれたものであり、近世山城であると同時に、中世に築かれた部分も存在する。

##### ●山・源流の産物

津和野町には、豊かな森林があり、源流域が形づくられ、その地域では、木材が生産され、紙の原料であるコウゾ・ミツマタ、ワサビが生産されている。

こうした山や源流の産物は、それ自体や生産過程が文化であると同時に、地域の生活文化と一体に存在する。

##### ●森林文化

山や源流、そこから生まれる産物は、地域の暮らしを支え、生活文化につながっていく。

津和野町では、炭焼きや狩猟がわずかながらも引き継がれ、炭窯の跡も確認できる。また、山岳信仰は暮らしの中に息づいている。また、豊かな森林資源を背景に、江戸時代には「木地屋」と呼ばれる人々による指物や漆器などの生産が盛んであったことから、今でもそれら生産品が町内各地の家々などに残されている。

##### ●自然

津和野町には、島根県下（県境以外）で最も高い安蔵寺山が位置し、豊かな森林や源流域があり、そこには大ミズナラをはじめ大木や滝がみられ、それらは信仰の対象ともなっている。

また、その中には、多種多様な動植物が生息・生育している。

## 第7節 津和野町の関連文化財群と歴史文化保存活用区域

「津和野町歴史文化基本構想・保存活用計画」では、「関連文化財群」と「歴史文化保存活用区域」を設定している。

この2つの観点は、津和野町の文化財の特性と合わせて、その保存・活用における新たな切り口を含むものである。また、「相互に関連性のある一定のまとまり（関連文化財群）」や「関連文化財群や単体の文化財と一体となって価値をなす周辺の環境（歴史文化保存活用区域）」といった考え方は、歴史的風致につながるものである。

このため、津和野町の歴史的風致の全体的な背景として、津和野町歴史文化基本構想・保存活用計画で明らかにした「関連文化財群」と「歴史文化保存活用区域」の概要を示す。

このうち「関連文化財群」については、「第2章 津和野町における維持向上すべき歴史的風致」を見いだす直接的な背景であり、前提となる。

また、「歴史文化保存活用区域」は、「第4章 重点区域の位置及び区域」の設定の背景となる。

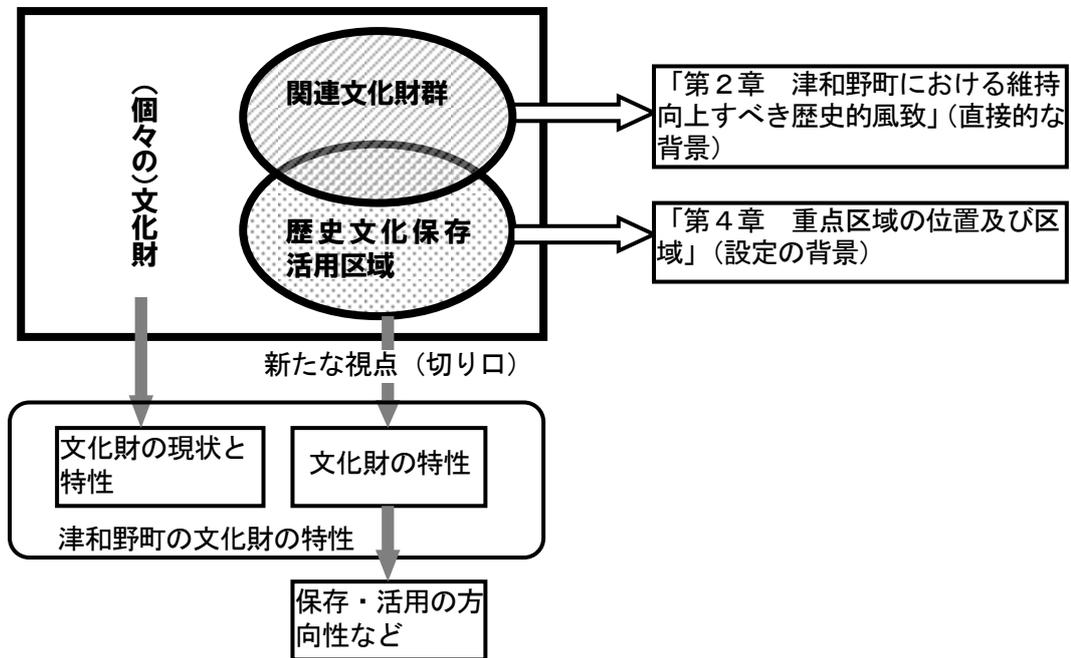


図 1-12 関連文化財群、歴史文化保存活用区域

### 1 関連文化財群の設定

有形・無形、指定・未指定を問わず、地域に存在する様々な文化財を、歴史的、地域的関連性等に基づいて、一定のまとまりとして設定するものである。

津和野町は、山間に位置し、近世城下町をはじめとし、個々の集落が単独で周辺環境とあいまって特長ある文化的環境を形成している。文化財の特性を見いだす上において考慮すべきは、個々の文化財が集落内において相互に関連し合って地域の特性を示すもの（狭義性）もあれば、個々の文化財が他の集落の文化財と横断的に関連し合ってはじめて価値をなすもの（広義性）も存在するものもある。

また、関連文化財群の設定においては、以下に示す基本的な考え方に基づき、①関連性、②テーマ性③意義・役割、④核となる文化財が明確となる必要となる。

こうしたことを踏まえ、津和野町においては、次のような基本的な考え方のもとに関連文化財群を設定する。

<関連文化財群の設定の基本的な考え方（基準）>

- コンセプト（“野・山・街”と共存する津和野の歴史文化を、地域で引き継ぎ、生かす）とその背景（津和野の歴史文化と“野・山・街”の文化財、その特性）に基づいていること
- 対象となる文化財が相互に歴史的な関連性を有し、その内容及び価値が明らかなものであること。
- 指定（または登録）文化財または今後指定されるべき文化財を含み、かつ、関連する文化財を有すること。
- 共通する保存・活用のテーマ等が見いだせること。

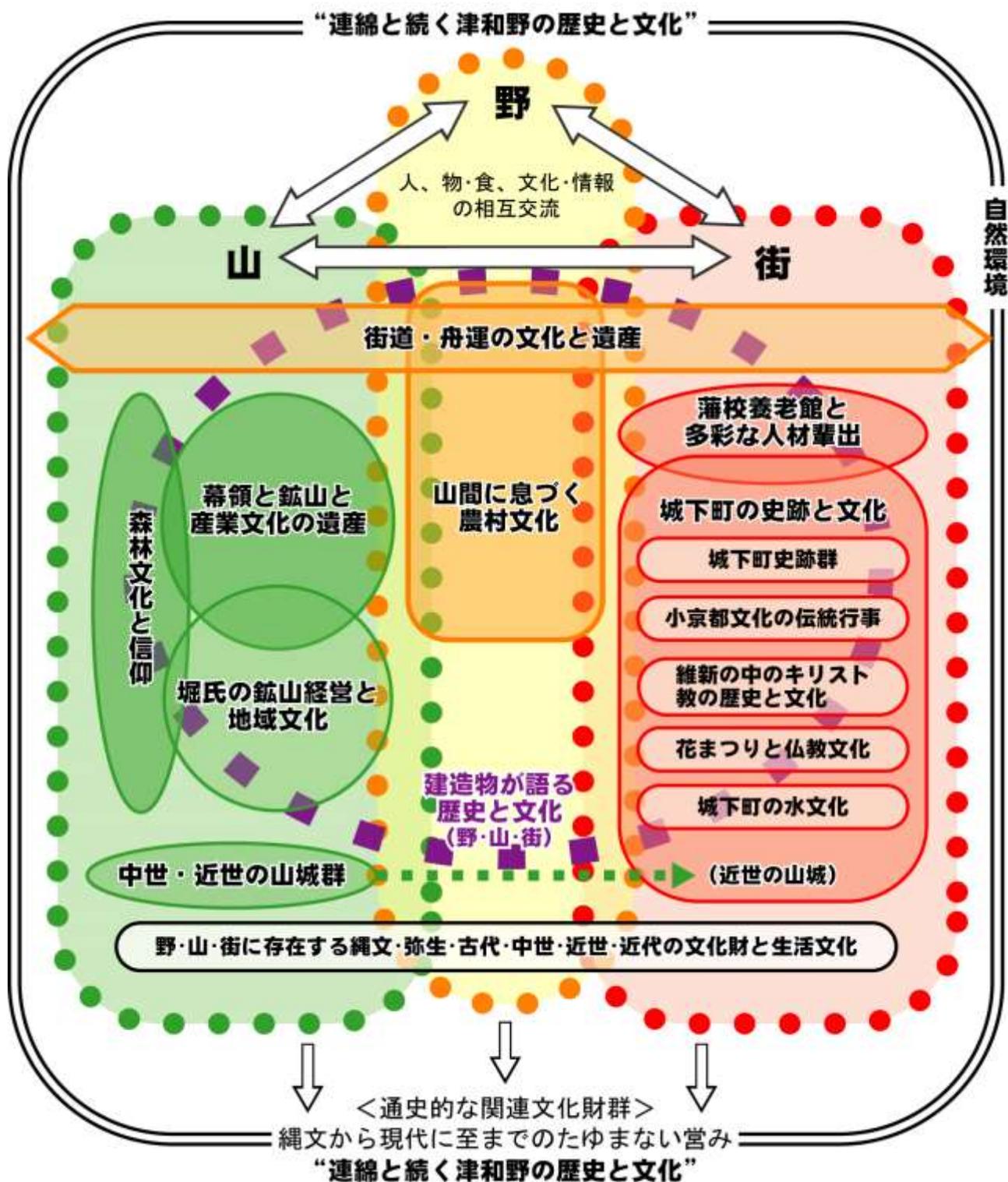


図 1-13 関連文化財群のテーマと構成

表 1-5 関連文化財群の設定 (1 / 4)

関連性の視点 (切り口) ～設定の考え方～	関連文化財群の内容 (概要)		主な文化財 ★:核となるもの(指定・登録) ☆:指定等を目指すもの
	関連文化財群 【名称 (テーマ)】	意義・役割	
(主として) 街	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・人材育成、思想の面からのテーマ等の検討</li> <li>・人物によるテーマ等の検討</li> </ul>	<p>■人材育成に関わる関連文化財群 【藩校養老館と多彩な人材輩出】</p> <p>現在も残る藩校養老館と、ここで学び近代日本の礎となった多くの人材やその関連する文化財について再認識し、保存・活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★津和野藩校養老館</li> <li>★西周旧居</li> <li>★森鷗外旧宅</li> <li>★桜陰館 (岡熊臣旧宅)</li> <li>☆教授生誕生地、墓所</li> <li>☆教科書 ・吉松家文書</li> <li>・孔子像 など</li> </ul>
(主として) 山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城跡に関するテーマの検討</li> </ul>	<p>■城跡を中心とした関連文化財群 【中世・近世の山城群】</p> <p>全国的にも数少ない近世山城 (津和野城跡) や地域に広がる数多くの中世山城に光を当て、城からみた歴史文化と津和野の特性を見いだし、保存・活用する。</p>	<p>&lt;近世&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★津和野城跡 (城郭、藩邸)</li> </ul> <p>&lt;中世&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★津和野城跡</li> <li>★下瀬山城跡</li> <li>☆御嶽山城</li> <li>☆陶晴賢本陣跡</li> <li>・茶臼山城跡</li> <li>・中木屋城跡</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

注) ■は広義の関連文化財群、□は狭義の関連文化財群



藩校養老館



西周旧居



森鷗外旧宅



桜陰館 (岡熊臣旧宅)



津和野城跡



下瀬山城跡

表 1-5 関連文化財群の設定 (2/4)

関連性の視点 (切り口) ～設定の考え方～	関連文化財群の内容 (概要)		主な文化財 ★：核となるもの (指定・登録) ☆：指定等を目指すもの	
	関連文化財群 【名称 (テーマ)】	意義・役割		
(主として) 街	・城下町に関するテーマ等の検討 ※歴史文化保存活用区域と連携	■城下町に関わる史跡や建造物、民俗文化を中心とした関連文化財群 【城下町の史跡と文化】	城下町に関わる史跡や建造物、民俗文化などを総体として保存・活用する。	※下記の5つの狭義の関連文化財群における文化財
	・近世城下町に関わる建造物や遺跡に関するテーマの検討	□近世城下町の史跡群 【城下町史跡群】	近世城下町遺跡内 (全域が周知の遺跡) にあって、現在までその遺構等を良好に残すもの (史跡) を関連文化財群として保存・活用する。	★藩校養老館 ★鷺原八幡宮流鏝馬馬場 ☆津和野神社 ☆弥栄神社 ☆高崎亀井家跡 ☆永明寺 ☆藩主亀井家墓所 ☆津和野藩邸瓦窯跡 など
	・民俗文化財に関するテーマ	□城下町の民俗芸能に関する関連文化財群 【小京都文化の伝統行事】	小京都文化のひとつである祇園祭は津和野の特長であり、それらを一括して保存・継承する。	★津和野弥栄神社の鷺舞 ☆弥栄神社 ☆御旅所 ・祇園祭縁起など関連資料 ・物見櫓 (藩邸、多胡家など) ・御神幸ルート ・子鷺踊り ・輪くぐり神事 など
	・宗教に関するテーマ	□キリスト教と乙女峠祭に関する関連文化財群 【維新の中のキリスト教の歴史と文化】	宗教の混在する津和野におけるキリシタン弾圧の歴史。関連する文化財を一体として保存・継承する。	★津和野カトリック教会 ★津和野カトリック教会神父館 ☆乙女峠と乙女峠マリア記念堂 ☆千人塚 ・キリシタン燈籠 ・巡礼の道 ・キリシタン関係資料 など
		□花まつりに関する関連文化財群 【花まつりと仏教文化】	お釈迦様の誕生日を祝う宗派を超えた仏教文化を保存・継承する。	★永明寺 (曹洞宗) ・常光寺 (浄土真宗) ・光明寺 (浄土宗) ・花まつりルート など
	・水に関するテーマ	□水に関する関連文化財群 【城下町の水文化】	周囲を山に囲まれた街には水路が張り巡らされ、周囲の農村部とは異なる小京都としての独特の文化が育まれた。それらを一体として保存・活用する。	★亀井氏庭園 ☆永明寺庭園 ・藩邸庭園跡地 ・商家庭園 ・煎茶文化 ・汲み地 (各所) ・取水口 ・鯉、花菖蒲 ・酒造りと井戸 ・和菓子作り ・石州和紙の製造 ・水田 ・雲海 など



鷺原八幡宮流鏝馬馬場



津和野弥栄神社の鷺舞



永明寺



亀井氏庭園



津和野カトリック教会

表 1-5 関連文化財群の設定 (3/4)

関連性の視点(切り口) ～設定の考え方～	関連文化財群の内容(概要)		主な文化財 ★:核となるもの(指定・登録) ☆:指定等を目指すもの
	関連文化財群 【名称(テーマ)】	意義・役割	
(主として) 山	・幕領と鉱山と産業文化からのテーマ等の検討	■銅山とたたら場跡を中心とした関連文化財群 【幕領と鉱山と産業文化遺産】	津和野の経済的基盤と産業文化を生み出した数多くの鉱山、たたら場を再認識し、守り、生かす。  <銅山> ☆笹ヶ谷銅山跡(坑道、製錬所跡、堀氏文書ほか関連資料) ・十王堂銅山跡 ☆日原銅山跡・成日照銅山跡 <たたら場> ★瀧谷たたら跡 ・上ヶ原たたら跡 ・どるぶちたたら跡 ・横道たたら跡 <関連文化財> ・製鐵関連資料 ・原田家墓所 ・銅山馬車街道 など
	・堀氏に関わるテーマ等の検討 ※歴史文化保存活用区域と連携	■堀氏の鉱山経営と地域の暮らしに関する関連文化財群 【堀氏の鉱山経営と地域文化】	近代まで引き継がれていた鉱山経営と産業文化、そして地域との関わりを再認識し、守り、生かす。
(主として) 野	・山陰道をはじめとした街道や舟運を軸としたテーマ等の検討	■街道・舟運の遺産を中心とした関連文化財群 【街道・舟運の文化と遺産】	山陰道をはじめとした街道、高津川の舟運、陸と川の道の結節、及びそれらとつながる産業や暮らしの文化を再認識し、守り、生かす。  ★山陰道(野坂峠越・徳城峠越) ☆津和野・廿日市街道(参勤交代道) ☆奥筋往還(津和野藩飛地へ) ・津和野藩番所跡 ・塩街道(笹ヶ谷～江崎) ・銅山・馬車街道(〃) ・渡し跡 ☆山口線(SL転車場、石炭練習場、橋脚、トンネル) など
野山・街	・歴史的建造物を中心としたテーマ等の検討	■多彩な歴史的建造物を中心とした関連文化財群 【建造物が語る歴史と文化】	津和野の歴史文化を伝える町家や民家などを再認識し、守り、生かす。  ★藩邸(馬場先櫓、物見櫓) ★武家屋敷(多胡家主屋、表門) ★商家住宅(財間家住宅、河田商店、下森酒造場、藤井家住宅など) ★農家住宅(竹原家住宅) ★宗教施設(鷲原八幡宮、三渡八幡宮、永明寺、津和野カトリック教会など) ★公共施設(津和野役場、津和野町郷土館) ・石見瓦 ・座頭さぐり ・鍔絵 ☆石垣(城跡、館跡、石段、棚田など…一部指定あり) など



旧堀氏庭園



山陰道(野坂峠越)



馬場先櫓



物見櫓



多胡家主門



津和野町役場(旧鹿足郡役所)

表 1-5 関連文化財群の設定（4 / 4）

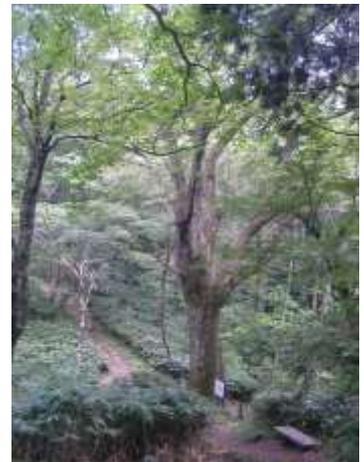
関連性の視点（切り口） ～設定の考え方～	関連文化財群の内容（概要）		主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
	関連文化財群 【名称（テーマ）】	意義・役割	
<p>（津和野） 野</p> <p>・農村の伝統文化と信仰に関わるテーマ等の検討</p>	<p>■多彩な農村文化を中心とした関連文化財群 【山間に息づく農村文化】</p>	<p>津和野は城下町、幕領（2箇所）を除くとその多くが農村であり、相互に関連する伝統文化や、信仰の対象となる文化財について一体として保存・活用する。</p>	<p>★柳神楽と神楽面 ☆石見神楽（4か所） ☆田植え囃子（3か所） ・三霊堂（和紙生産に関する物語と祠：4か所） ・河内神社など各種神社と地鎮申し（多数） ★神社の社叢（多数） ・荒神森と墓、供養塔（多数） ★竹原家住宅（農家住宅） ☆地芝居 ・農村食文化（まんさく、さば、芋煮、しるこ） など</p>
<p>（津和野） 山</p> <p>・森林文化と信仰に関わるテーマ等の検討</p>	<p>■山と森に関する関連文化財群 【森林文化と信仰】</p>	<p>豊かな森や山々の自然環境を次代に引き継ぐとともに、そこでの暮らしの文化（足跡）や信仰を保存・継承する。</p>	<p>★安蔵寺山の大ミズナラ ☆青野山 ☆安蔵寺山 ・山岳信仰 ・山王権現 ・炭窯跡 など</p>
<p>野・山・街</p> <p>・通史的な関連文化財群の検討</p>	<p>■縄文から現代に至るまでのたゆまない営み 【連綿と続く津和野の歴史と文化】</p>	<p>古代（先史）から現代まで、文化財を通じて、時間軸を意識しながら、津和野の歴史文化と歩み、そして、特色・魅力を体験できるようにする。</p>	<p>★城下町遺跡（近世：周知の遺跡） ★木菌遺跡（中世） ☆高田遺跡（縄文後期～中世） ☆大蔭遺跡（縄文晩期～弥生） ☆大婦ヶ遺跡（奈良・平安） ・喜時雨遺跡（中世） ・山崎遺跡（縄文草創期） ・その他遺跡と出土遺物 など</p>



神社の社叢（左鑑八幡宮）



竹原家住宅



安蔵寺山の大ミズナラ

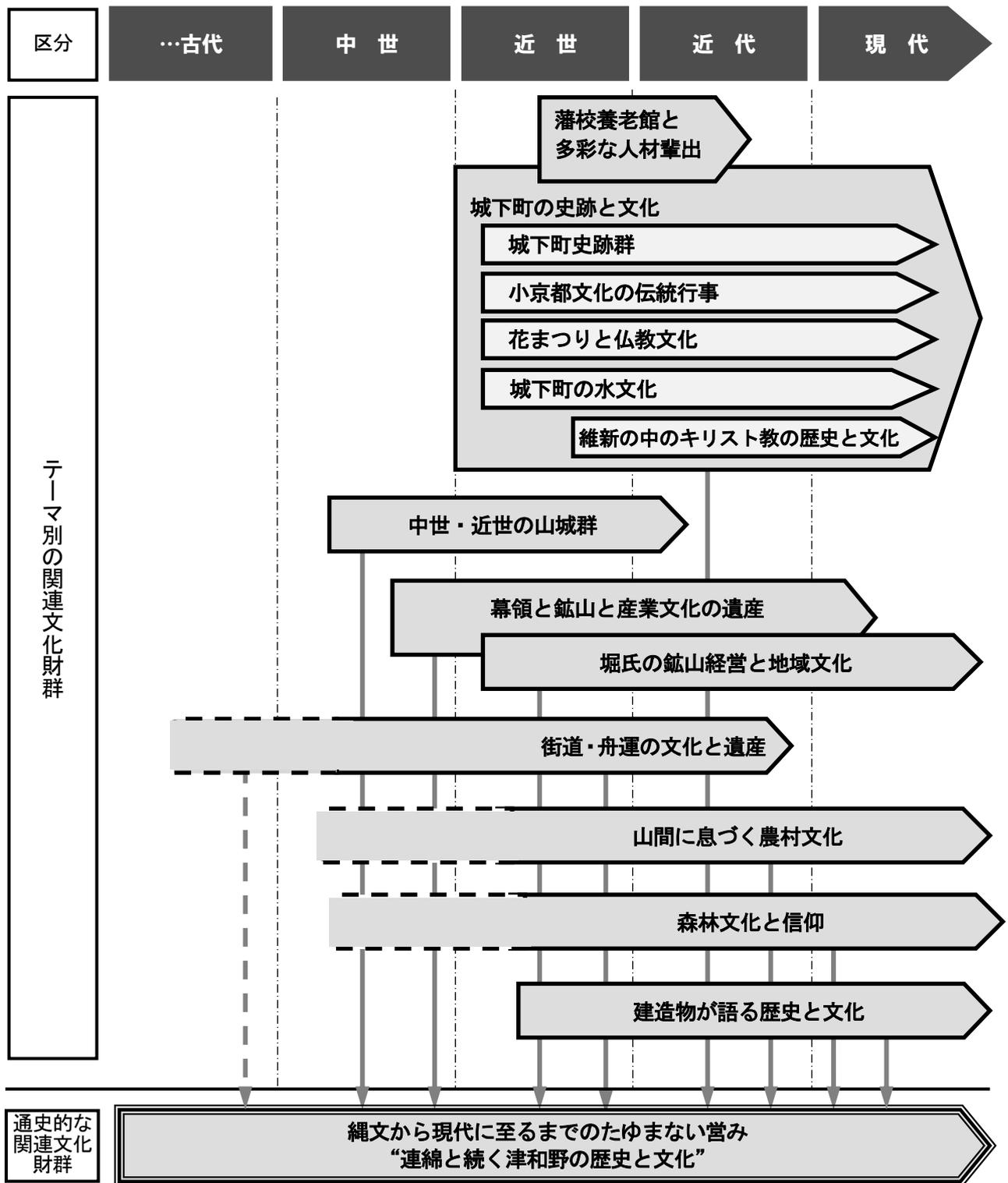


図 1-14 関連文化財群の時代と通史的な関連文化財群の設定

## 2 歴史文化保存活用区域の設定

歴史文化保存活用区域は、関連文化財群や個々の文化財を核とし、それらと一体となって価値をなす周辺の環境を含めて、文化的な空間を創出するための計画区域として設定するものである。

津和野町は山間に位置し、個々の集落が単独で周辺環境とあいまって特徴ある文化的環境を形成しており、それぞれが街道や河川などを通じて相互に密接に関連しあっている。保存活用区域として設定するためには、核となる指定文化財（今後その価値を明らかにし、指定すべきものも含む）や、関連文化財の一部を含み、特長ある歴史文化の継承と文化財の保護・活用が図られることが必要となってくる。

こうしたことを踏まえ、津和野町においては、次のような基本的な考え方のもとに、歴史文化保存活用区域を設定する。

### <歴史文化保存活用区域の設定の基本的な考え方>

- ①コンセプトに基づいていること（一貫性）
- ②文化財が相対的に集積していること（存在性）⇒指定文化財（国・県・町指定：今後指定を目指すものも含む）または関連文化財群の一部が含まれていること
- ③対象区域が津和野の歴史を語る上で地域特有の歴史文化を有し、指定文化財や関連文化財群と密接に関連して、一体として保護の対象となるべき文化財が多数存在すること（関連性）
- ④周辺環境を含め文化財を核とした文化的な環境づくりが可能であること（発展性）

表1-6 歴史文化保存活用区域の設定の基本的な考え方の意図すること

基本的な考え方	「基本的な考え方」と「一体となって価値をなす周辺環境」との関係
①コンセプトとその背景に基づいていること（一貫性）	○設定区域はコンセプト（山・野・街）と密接に関わり、歴史的背景を有しているもの。 ○文化財調査及びコンセプト等に基づいて設定した視点を基本とし、区域（広がり・周辺環境）が明確となるもの。
②文化財が相対的に集積していること（存在性）	○指定文化財が存在するか、または関連文化財群の一部を含み、それらが地域（歴史文化保存活用区域）の特性を表わすランドマーク（目印、象徴）となっていること。 ○核となる文化財または関連文化財群と近隣接する文化財が多数存在し、文化財の存在（集積、密度）から区域が設定できること。
③地域特有の歴史文化を有し、指定文化財や関連文化財群と密接に関連して、一体として保護の対象となるべき文化財が多数存在すること（関連性）	○核となる指定文化財、または今後指定を目指す文化財と密接に関連し、地域の特性を表す構成要素が多数存在するものであること。 ○その中には今後調査を進め、文化財指定を目指すべき文化財を有すること。
④周辺環境を含め文化財を核とした文化的な環境づくりが可能と考えられること（発展性）	○設定した区域において、地域の特性を表す個々の指定文化財やその他文化財、関連文化財群が、将来にわたって一体的・持続的に、整備を伴いながら保存・活用していくことができ、文化的な環境づくりにつながるものであること。

表1-7 歴史文化保存活用区域の設定（1／3）

領域（広がり）の視点（切り口）	区域【名称】	意義・役割	主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
<p>○津和野城跡と旧城下町及びその周辺の一体的な区域の検討</p> <p>○路地や水路など、暮らしの空間文化を通じた区域の検討</p> <p>○城下町文化の視点から意義・役割や文化財の検討</p>	<p>●津和野城跡と旧城下町及びその周辺</p> <p>●小京都文化を取り上げる区域【津和野城、城下町遺跡とその街並み】</p>	<p>全国に数例しかない近世山城である津和野城跡、山麓の居館跡や櫓、城下町の面影を伝える街並み、そして関連史跡群を中心に、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。</p> <p>また、小京都文化が色濃く残る区域において、その継承と活用を図る。</p>	<p>★津和野城跡</p> <p>★藩校養老館</p> <p>★多胡家表門</p> <p>★鷲原八幡宮</p> <p>★永明寺</p> <p>★弥栄神社（鷲舞）</p> <p>★津和野町役場、津和野町郷土館</p> <p>★津和野カトリック教会</p> <p>★津和野踊り</p> <p>★流鏑馬神事</p> <p>★山陰道（野坂峠越）</p> <p>★亀井氏庭園</p> <p>☆JR山口線（SL運行）</p> <p>☆高崎亀井家跡</p> <p>☆商家</p> <p>☆乙女峠と乙女峠まつり</p> <p>・水路（取り水口）と水文化</p> <p>・煎茶文化</p> <p>・輪くぐり神事（着物文化）</p> <p>・庭の文化</p> <p>・石州和紙の文化</p> <p>・石見瓦と建築様式</p> <p>・和菓子文化</p> <p>・伝統的食文化</p> <p>・大蔭遺跡（縄文）</p> <p>・高田遺跡（縄文～中世）</p> <p>・喜時雨遺跡（中世）</p>
<p>○旧堀氏庭園を中心とした区域の検討</p>	<p>●旧堀氏庭園とその周辺【旧堀氏庭園と関連遺産】</p>	<p>津和野の経済的基盤と産業文化を今に伝える旧堀氏庭園と関連遺産を、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。</p>	<p>★旧堀氏庭園（主屋、枯山水庭園、楽山荘、和楽園、畑迫病院、畑ヶ迫銀銅山等）</p> <p>☆墓所</p> <p>☆旧川園</p> <p>・顕彰碑</p> <p>・城ノ腰、外輪、出丸</p> <p>・西光寺</p> <p>・ホタル など</p>
<p>○笹ヶ谷銅山を中心とした区域の検討</p>	<p>●笹ヶ谷銅山一帯【幕領の繁栄と歴史を伝える鉱山遺跡】</p>	<p>中世から採掘され、江戸時代には幕領として、地域経済や幕府の財政を支えた鉱山や関連遺構などを、一体的に保存・活用していく。</p>	<p>☆笹ヶ谷銅山跡（坑道、製錬所跡）</p> <p>☆中木屋城跡</p> <p>など</p>
<p>○津和野における築城と思想の始まりを知ることでできる区域の検討</p>	<p>●木部の集落を中心とした区域【吉見氏の入部と津和野の思想の発祥の地】</p>	<p>吉見氏が津和野に入った最初の拠点であり、その関連遺跡群や津和野における神道の発祥の地である地域を、一体的に保存・活用していく。</p>	<p>★岡熊臣旧宅</p> <p>★木藪遺跡（吉見氏居館跡及び関連遺跡群）</p> <p>☆福羽美静生誕地</p> <p>☆御嶽城跡、徳永城跡</p> <p>☆富長八幡宮</p> <p>・銅山の馬車道</p> <p>・塩の道 など</p>

表1-7 歴史文化保存活用区域の設定（2 / 3）

領域（広がり）の視点（切り口）	区域【名称】	意義・役割	主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
○青野山と一体となった文化的景観による区域の検討 ○棚田を中心とした文化的景観と暮らしの文化を通じた区域の検討	●麓耕・直地の棚田と集落 【青野山周辺の農村景観】	青野山の溶岩の上に形づくられた棚田や石州瓦の集落、暮らしの文化や自然、そして青野山を借景とする特徴的な景観を、一体的に保存・活用していく。	☆棚田景観と集落（麓耕・直地地区：赤瓦、農村集落） ・津和野川 ・清水（湧水） ・麓耕村五神社 ・地倉沼（モリアオガエル） ・地倉権現祭 ・風穴（養蚕） ・噴火跡（麓耕崩れ）
○青野山と一体となった文化的景観による区域の検討 ○田園と暮らしの文化を通じた区域の検討	●笹山の田園と集落 【青野山周辺の石見瓦の集落景観】	青野山の麓に形成された田園と石州瓦の集落、暮らしの文化や自然、そして青野山と一体となった特徴的な景観を、保存・活用していく。	☆田園景観と集落（笹山地区：赤瓦、農村集落） ・廿日市街道（参勤交代） ・風穴（養蚕） ・日参様 ・笹山水源地（湧水） ・南谷発電所跡 など
○青野山を中心に一体の区域として捉えることも検討	【青野山一帯の自然と農と暮らしの文化】	上記の2つの区域と青野山を、一体的に保存・活用していく。	☆青野山 ・山王権現 など



青野山と麓耕の集落と津和野川



青野山と笹山の集落

表 1-7 歴史文化保存活用区域の設定 (3/3)

領域 (広がり) の視点 (切り口)	区域【名称】	意義・役割	主な文化財 ★:核となるもの(指定・登録) ☆:指定等を目指すもの
○高津川や源流域(横道川)の自然と暮らしに関わる文化圏の検討	●豊かな森林と清流が息づき、平家伝説の伝わる左鏡の集落やたたら場跡を中心とした区域 【森と清流と平家伝説の文化圏】	豊かな自然とともに暮らしてきた人々の足跡と文化を、森や清流や伝説などと一体となった圏域として保存・活用していく。	★瀧谷たたら跡 ★下森酒造場 ★左鏡八幡宮社叢 ☆たたら場 ・水力発電所跡 ・茶屋跡 ・神楽 ・ブナの原生林 ・ホタル など
○日原の街並み等の再評価と一体的な区域の検討	●日原及び枕瀬の街並みを中心とした区域 【幕領と川が育んだ街並み景観】	かつて鉱山で賑わい、幕領であった地域の歴史文化、そして高津川と緑にとけ込む石州瓦の街並みを、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。	★藤井家住宅 ★枕瀬代官所跡 ☆水津家住宅ほか ☆歴史民俗資料館(資料等) ・赤瓦の街並み(日原天文台からの景観など) ☆高津川と周辺の文化的景観 ☆日原銅山跡 ・奴道中 など
○天然記念物やそれを取り巻く文化的景観による区域の検討	●大元神社跡の樟を中心とした区域 【県下の大木を中心とした農村景観】	大元神社跡の樟をシンボルとした農村景観を守るとともに、それと一体的に存在する文化財を保存・活用していく。	★大元神社跡の樟(クスノキ) ★三渡八幡宮(本殿、社叢) ★下瀬山城跡 ★社地脇古墳跡 ・集落(田園) ・歯の地藏様、耳の地藏様 ・薬師堂(目の神様) ・カブトエビ など
○街道と舟運の結節点における歴史的な区域の検討	●青原・柳村の集落を中心とした区域 【街道と舟運が交わる交易・交流遺産】	山陰道と高津川の舟運の結節点として、交易・交流で栄えた歴史文化と集落を、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。	★青原八幡宮(社叢) ★青原代官所跡 ★山陰道(徳城峠越) ・渡し跡 ★柳神楽と神楽面 ☆網代 ☆原田家(たたら)墓所 ☆奴道中 ・尾中山城跡、大嶽城跡 など
○河川(高津川)と景観・生活文化をつなぐ区域の検討	●高津川とその周辺 【高津川の恵みと文化的景観】	日本一の清流である高津川とその恵みである生業や暮らしの文化、そして景観を、川を軸として一体的に保存・活用していく。また、上流の吉賀町、下流の益田市と連携した取組を進める。	☆高津川の文化的景観(安蔵寺山と大ミズナラ、雄滝、雌滝、たたら跡、棚田、ワサビ田、漁(アユ、カニ、ウナギ)、溪流魚(ゴギ、ヤマメ)平家伝説、巖島神社、水力発電所跡など)



高津川



横道川



